

[成果情報名]チャノキイロアザミウマによる「ロザリオビアンコ」の「かすり症」類似被害の識別と抑制

[要約]「ロザリオビアンコ」は、成熟期にチャノキイロアザミウマに加害されると、果粒表面に「かすり症」類似の被害が発生する。収穫期前まで本種の防除を行うことで、被害を抑制できる。

[担当]果樹試・環境部・病害虫科・村上芳照

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

近年、「ロザリオビアンコ」において、生理的な要因によるものと考えられる果粒表面に褐色の斑点やシミ症状（かすり症：仮称）が発生し問題となっている。一方、チャノキイロアザミウマの加害により、類似の症状が発生することが疑われたため、被害果の特徴と抑制法について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 「ロザリオビアンコ」は、成熟期にチャノキイロアザミウマに果粒表面を加害されると「かすり症」に類似した被害が発生する（図1）。
2. 被害果粒の表面を観察すると、チャノキイロアザミウマの被害では吸汁された細胞がモザイク状に見られる（図1）。「かすり症」では微小な亀裂が見られる（図2）。被害は、100倍以上の顕微鏡等で識別できる。
3. 除袋直前まで防除を行い、本種の発生を抑制することにより（図3）、果粒および穂軸の被害を抑制できる（表1）。

[成果活用上の留意点]

1. 本種の発生は、6月下旬以降収穫期まで増加する。この時期以降は散布間隔があかないよう注意する。
2. 収穫前の防除は、モスピラン水溶剤4,000倍（14日前）またはダントツ水溶剤4,000倍（前日）を用いる。
3. 生理障害の「かすり症」は他の要因により発生し、現在試験中である。

[期待される効果]

1. チャノキイロアザミウマによる被害が抑制され、品質の向上が期待できる。

[具体的データ]



図1 チャノキイロアザミウマの被害果粒と拡大図

図2 「かすり症」被害果粒と拡大図

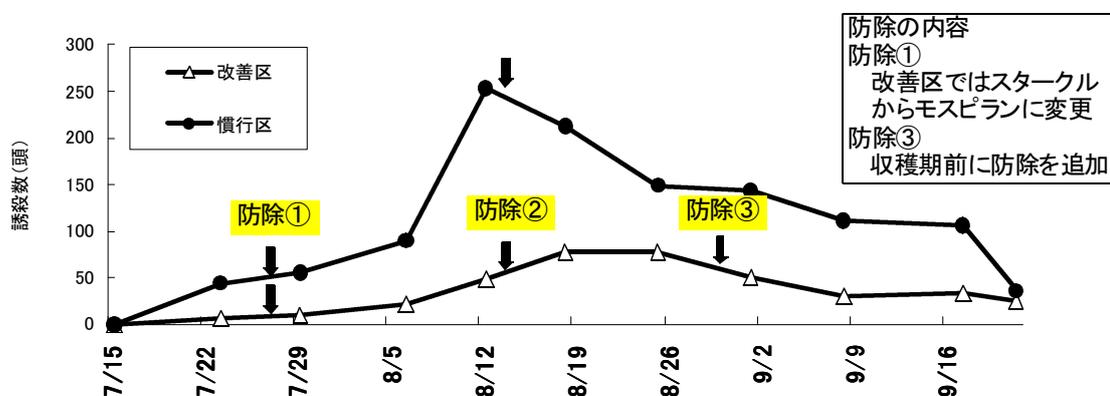


図3 散布体系の違いによるチャノキイロアザミウマのトラップへの誘殺数 (H22)

表1 散布体系の違いによるチャノキイロアザミウマに対する防除効果 (H22)

試験区	調査房数	被害房率%		被害度	
		果粒	穂軸	果粒 ^{y)}	穂軸 ^{y)}
改善区	40	0	5.0	0	1.7
慣行区	40	20.0	67.5	5.4	23.3

調査日：9月21日

X) 果粒の被害程度 0：無し、A：被害果粒1～5粒、B：被害果粒6～12粒
(かすり症類似) C：被害果粒13粒以上

Y) 穂軸の被害程度 0：無し、A：穂軸の被害面積1/4以下、B：穂軸の被害面積1/4～1/2、C：穂軸の被害面積1/2以上
被害度 = $(N_A + 3N_B + 6N_C) / 6N \times 100$

[その他]

研究課題名：ブドウの「かすり症」発生抑制技術の確立

予算区分：県単（重点化）

研究期間：2008～2012年度

研究担当者：村上芳照・内田一秀・手塚誉裕・加藤 治・齋籐典義・宇土幸伸・里吉友貴
功刀幸博